



ふくりゅう

特定非営利活動法人

発行責任者 酒井彰(運営委員会代表)

平成15年7月5日

通巻32号

第7回下水文化研究発表会開催のお知らせ

テーマ：「衛生の原点 - 地球規模の衛生の改善のを考える」

第7回下水文化研究発表会を下記の企画で開催いたします。多くの参加ならびに論文投稿をお待ちしております。

1. テーマと趣旨

衛生の原点

- 地球規模での衛生の改善を考える -

今年3月に行われた第3回世界水フォーラムと昨年の国連環境サミット・ヨハネスブルク宣言によって、多くの国の水供給や衛生の劣悪な状況が多くの日本人に知られるところとなりました。安全な水の供給と衛生の確保は地球規模の持続的発展において、最重要の課題であるという認識が高まっています。適切な衛生設備を利用できない人口は24億人から30億人と言われ、多くの途上国の大多数の国民は、水洗トイレ、下水道はおろか、家のなかにトイレをもたない状況にあります。ヨハネスブルク宣言では、こうした衛生設備を利用できない人口を2015年までに半減させることを目標にしています。

しかしながら、どういったレベルの衛生状態を確保するのか、それぞれの場所において適正な技術とはどういうものなのか、また適正技術をどのように普及するかということについてはさまざまな意見があります。少なくとも衛生的なトイレとし尿の処理からスタートしなければならないでしょうし、わが国のような下水道システムは将来の姿かもしれません、今すぐそうした技術を移転すればよいとする根拠はないと思います。

今、衛生の原点に立ち返り、途上国にとって衛生の確保がいかにその国の発展にとって重要か、地域が受入れ可能な適正技術とはどういうものか、それをどう普及させるのかといったことは日本人に課せられた課題であると思います。そうしたことを考えるに際してわが国の下水文化の歴史のなかにも重要なヒントがあるかもしれません。いっしょに考えてみませんか。

基調講演を快く引き受けていただいたHoque女史は、井戸水のヒ素汚染や都市衛生問題に直面しているバングラデシュから水フォーラムに参加され、適正技術に関してセッションを企画し、コーディネーターを務められました。

2. 開催要領

日時：11月15日(土) 会場：日本水道会館

プログラム

- 基調講演：Dr. Bilqis Amin Hoque
「途上国の水と衛生の現実と
問題解決への挑戦(仮題)」
- 基調報告：
草の根海外支援事業のスタートに向けて
本会の近い将来の事業として具体化の方針を提案
したいと思います。
- パネルディスカッション
途上国に適した衛生技術と
それをいかに普及させるのか(仮題)
途上国での衛生の実態、途上国にとっての適正
技術とは、日本における歴史からまなぶこと、
これからの技術支援・技術移転のあり方、日本の
役割などを議論します。
- 研究発表分科会：4つの分科会を考えています。下記
に記載のキーワードにとらわれず奮って応募ください。
 - 1) 下水文化史：下水文化(し尿、トイレ、ごみ、排水、
水の使い方、活かし方)の歴史など。今回はとくに江
戸開府四百年に関連する論文を募集します。
 - 2) 海外下水文化：これまでの海外技術移転の成果、課
題、途上国の実状に適した技術、これから技術移転
のあり方、海外の水文化・水事情など
 - 3) 下水文化活動：下水文化の普及活動、流域の上下流
交流、下水道事業における住民参加など
 - 4) 下水文化研究：水環境・水資源・水循環の総合的管
理、下水・下水道技術の社会との関わり、上下水道
事業の経営、民営化など
- 展示コーナー：トイレグッズの展示など
基調講演者の紹介、論文募集要項等は4ページへ

2003年バルトン忌の御案内

夏の到来とともに、皆様お待ちかねの当会真夏の恒例行事バルトン忌が近づいてまいりました。

今年は8月2日(土)に行います。下記のとおり、午前中に、青山墓地・バルトン墓前での行事の後、午後は、東京江戸博物館に移動し、展示場6階にて浅草十二階の1/10模型などの見学会を予定しております。多くの会員(非会員も大歓迎です)の参加を期待しております。

記

1. 日時 8月2日(土曜日)
2. 集合時間と場所
(午前の部) 10:00 青山墓地・島村花店待合室
港区青山2-34-31 TEL 03-3401-2682
(午後の部) 13:00 江戸東京博物館・切符売り場
総武線「両国」駅下車徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「両国」駅徒歩1分
入場料はご負担願います。

“東本願寺と環境を考える市民プロジェクト”に参加しよう

昨年10月発行のふくりゅう28号でお伝えしましたように、京都東本願寺が、2011年の親鸞聖人第750御遠忌に向けた記念事業のなかで、環境や地域防災への取組みを検討しています。京都駅前で広大な敷地、屋根、お堀など、環境や防災に寄与できる資源と系列のお寺、門徒という大きな情報伝達媒体をもった真宗大谷派の本山・東本願寺が、御遠忌を機に時代・社会が求めている環境・防災問題に一步踏み出せば、大きなムーブメントになっていくのではないかと思います。

その後の経緯をお伝えしておきましょう。この3月世界水フォーラムの直前に行われた本会定例研究会では私が雨に関する講演を行いました。その際、参加された「雨水市民の会」(以下、市民の会)の方が、水フォーラムの期間中東本願寺の宿坊に泊まられると知りました。それではと、東本願寺の若き僧、蓮容さんに連絡し、市民の会の水フォーラムでのイベントを紹介しました。市民の会の皆さんは、朝から現地視察をされる一方、東本願寺から、蓮容さん、延澤さんが3月22日の世界水フォーラム雨水利用 in 京都第5分科会「雨水学を語ろう」に参加されました。終了後、交流会が行われ、東本願寺で環境、命、水や木の文化など未来に向かって残していきたいものについて、大いに語るシンポジウムを開こうという話で盛り上がりました。

そして、6月14日、市民の会、京都雨水利用を進める市民の会、宮大工の大森さん(市民の会会員)と東本願寺より7名の僧が出席し、これからのことが話されました。本会からは木村関西支部長が出席しました。その際、瓦の

ようなことからはじめ、関係する人へアピールしていこうということになりました。そこで出たアイデアは、間もなく設置される工事用の屋根に降った雨水を瓦を洗うのに利用してはどうか、などでした。そして、東本願寺が有している琵琶湖疎水の水利の活かし方なども含め、多くの市民や地元と協力して、防災、京都の水文化再生へと息の長い取り組みにしたいということとなりました。また、このプロジェクトは、「東本願寺と環境を考える市民プロジェクト」と命名され、広く意見を求めていこうと、メーリングリストも設けられました。

(higasipecp-owner@ml-b4.infoseek.co.jp)

これからの取り組みとしては、下京区市民防災の日である8月31日に行われる行事に関連させて、関係者へアピールできる催しも計画が進められています。なお、この市民プロジェクトは6月25日に行われた市民の会総会でも承認されました。

京都市も環境や防災に有効となる「地域の水」に着目しており、行政も巻き込んだ動きになっていくことが期待されます。下水道の関係者も一東本願寺だけで雨水流出抑制しても効果が小さいということにばかりに気をとらわれていないで、下流の下水道にとってどれだけのメリットがあるかを具体的に明らかにし、幅広い関係者とのパートナーシップの関係を築いていく足がかりを創り出すつもりで、参加していったらどうでしょうか。

(文責：酒井 彰、写真撮影：木村淳弘)

豆知識

	御影堂(境内北側) 親鸞聖人(1173~1262)の御真影安置	阿弥陀堂(境内南側) 本尊・阿弥陀如来安置
正面の長さ	76m(42間)	52m(29間)
側面の長さ	58m(32間)	47m(26間)
高さ	38m(21間)	29m(16間)
瓦数	175,967枚	108,392枚
屋根面積	8,100m ²	4,100m ²
畳数	927枚	401枚
両堂とも1880年(明治13年)起工、1895年(明治28年)完成した。御影堂は世界最大の木造建築。		



御影堂屋根瓦の視察

状況や屋根裏の検分、お堀の調査などを行い、一同御影堂屋根裏の巨大な屋根組みに感動されたとのことでした。そして、話し合いの結果、最初は実験的にでもい

第21回 し尿研究会の定例会のお知らせ

講演者 関野 勉 氏(家庭紙研究者)
講演タイトル 「トイレのグッズ」

内容：関野さんが世界各地、日本の各地から長年掛けて集めたトイレに関する珍しいグッズ、人形、おもちゃ等々の紹介です。これは見なければ損です。

日時 9月5日(金曜日)18時30分~20時30分
場所；東京ボランティアセンター

・市民活動センター・セントラルプラザ

10階 会議室

新宿区神楽河岸1-1(電話03-3235-1171)

JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分

トイレ考・屎尿考の書評を(財)日本環境衛生センター小林康彦理事長に執筆いただき、同センター発行「生活と環境」6月号に掲載されました。同センターのご了解をいただきましたので、当会報へ転載し、会員の皆様に提供いたします。

屎尿・トイレを表舞台に
- 「トイレ考・屎尿考」を読んで -

(財)日本環境衛生センター理事長 小林 康彦

人の生存条件は、まず、食べて・飲んで、排せつすることです。飲食については「食文化」として、多くのことが語られ、書かれ、写されています。それに対し、排せつ、とくに、屎尿については、話題にすることがはばかられる雰囲気がついてまわります。本誌の読者には、食事時にくみ取りや屎尿処理の話をするのがプロの証のような発言を耳にされた方も多いのではないかと思います。

便には、伝染病を感染させる、不快なおい、蝇(うじ)発生のおん床などの衛生問題と、肥料としての価値など資源としての側面、それに、便秘・下痢などの健康問題があります。屎尿は遠ざけておきたいもの、不潔というイメージが長いことつきまわっていました。それだけに、トイレや屎尿を系統立てて扱った書物は乏しく、断片的な記録が残されているに過ぎません。

屎尿への対応の仕方には、民族、地域、時代、生活様式で、驚くほどの差異が認められます。そこに「文化」を見出し、創造しようとする人々が「トイレ考・屎尿考」を出版されました。NPO日本下水文化研究会屎尿研究分科会の皆さんです。下水文化研究会は1986(昭和61)年、下水問題を文化の視点で考えようとの稲場紀久雄さん(現在:大阪経済大学教授)が呼びかけて設立されました。その分科会として屎尿文化研究会(会長:地田修一さん)が1998(平成10)年以降、3ヶ月程度に1回例会をもち、その成果が本書の基礎になっています。自発的な話題提供をベースに、聞き書き、体験記、文学・芸能からの引用、歴史資料の解説、最近の技術動向など31話が収められています。話題も豊富で闊達な語り口で、なるほどと、屎尿文化の奥深さに感心します。次のようなテーマに関心のある方におすすめします。

- ◆ なぜ、人間だけがお尻を拭くのでしょうか。
- ◆ お尻を拭く方法をいくつかあげられますか。

- ◆ 紙で拭くことはいつ頃から始まったのでしょうか。
- ◆ ロール状のトイレットペーパーはいつ登場し普及していったのでしょうか。
- ◆ 便所とはなんのでしょうか。どういう場所に作られてきたのでしょうか。
- ◆ 地球上で便所を利用していない人口はどのくらいあるのでしょうか。
- ◆ 屎尿の資源としての利用には肥料の他どんな方法があったのでしょうか。また、そのためにどんな工夫がされていたのでしょうか。
- ◆ 有価物としての屎尿は、その出所により、価値が違いました。最低のランクはどこからくみ取ったものでしたのでしょうか。
- ◆ 屎尿の農村利用が減少したとき、市町村が検討し、あるいは採用したのはどのような処理(対策)だったのでしょうか。
- ◆ 便槽から、屎尿をくみ取り、運搬するためのこつは何でしょうか。列車での運送を聞いたことはありませんか。
- ◆ 環境・衛生からみた屎尿の扱いはイギリスやフランスと比較して、日本は優れていたのでしょうか。

本書の続編が本誌8月号から始まります。楽しみです。

現在も、トイレ・屎尿は変貌を遂げつつあります。我が国ではお尻洗浄装置の普及はめざましいものがありますが、米国で広がる素地はあるのでしょうか。

清潔な水洗トイレに慣れ親しんだため、異なる状況で用が足せない人が増えている感じがします。屎尿経路のホルモン等の環境問題はどの程度深刻なのでしょうか。

地球上の衛生確保については未だ処方箋が描けていません。

引き続き、屎尿文化研究会のご活躍を期待いたします。

お知らせ 第7回日本下水文化研究会総会は5月17日(土曜日)開催され、正会員28名の出席、委任状120名提出をもって成立しました。議案についてもすべて承認されました。どうもありがとうございます。諸般の事情より、財政状況が非常に逼迫して参りましたが、引き続きご協力お願い申し上げます。紙面の関係で総会報告は次号に送りたいと思いますが、新たに承認いただきました新運営委員の甘さんの自己紹介を掲載いたします。再任の運営委員8名ともどもよろしくお祈りいたします。

(運営委員一同)

【新運営委員の自己紹介】 中国北京出身の甘長准です。1990年に豊橋技術科学大学大学院に入学して、工学系衛生工学研究室で恩師の北尾先生の指導のもとに、合併浄化槽及び好気性ろ床に関して研究をしました。1992年に修士課程を修了後に縁がありまして、日本上下水道設計株式会社に入社しました。現在に至った11年間において、水質調査、下水計画、合流改善などの業務に従事しました。この度、運営委員として選ばれて、いろいろと不安がありましたが、この素晴らしい機会を掴んで日本及び世界各国の下水文化を勉強・理解するとともに、本研究会の活動を拡大・発展するように、積極的に参画したいと思っております。今後ともよろしくお祈り致します。

3. 発表論文の募集

電話&FAX : 03-5363-1129

e-mail : jade@jca.apc.org

(1) 発表の申込

発表希望者は、次の要領で申込をしてください。発表申込は論文提出ではありません。なお、論文は、概ね1,600字×6ページ程度とご承知おきください。

- 提出書類：同封の発表申込書を郵送、FAX、e-mailで提出してください。
- 申込書の作成要領：申込書の書式にしたがって下記を記入してください。

(ア) タイトル・著者名・所属名

(イ) 要旨：日本語400字以内

(ウ) キーワード

(エ) 応募分科会：4分科会からひとつをお選びください。(プログラムの都合上、変えさせていただくことがあります、その場合ご了解願います。)

(オ) 連絡先(連名の場合代表者)

- 申込締切：2003年8月11日(月)必着
- 応募先

〒162-0067 新宿区富久町6-5 NJS 富久ビル別館
NPO法人日本下水文化研究会 事務局

(2) 論文作成要領の送付

論文応募いただいた方には論文作成要領を8月中に発送致します。論文ではタイトル、著者名、所属名、キーワードは日本語、英語両方でお書きください。また、可能な限り200語程度の英文要旨をお付け願います。なお、応募された論文要旨から、宣伝的なもの、個人に対する誹謗を目的とするものと運営委員会が判断した場合には、発表をお断りすることがあります。

(3) 論文の提出

- 提出締切：2003年9月30日(火)必着
- 提出先：発表申込と同じ

(4) 発表形式

口頭発表：発表では、プロジェクター(パワーポイント)、OHPが使用できます。発表時間は分科会の論文数によっても変わりますが、標準として20分とします。

(5) 参加申込方法など

研究発表プログラムが確定してから10月中に発行予定の会報でご案内致します。研究発表会当日までに発表者・参加者へ講演集を送付する予定です。

運営委員会・事務局より

会費納入のお願い：会費納入ありがとうございました。まだの方は至急納入お願いいたします。

経費節減のため、メール便を利用しています。住所変更された場合には戻ってくるようになりますので、住所変更は速やかにお知らせいただきたいと存じます。さらに、会報をe-mailあるいはホームページで閲覧できればよいという方にはe-mailで発行のお知らせのみを行うことを考えています。近いうちにお問合せさせていただきますので、メールアドレスが変わられた方もお知らせ願います。

今年の研究発表会では、途上国の「水と衛生」の問題に対して、地元が受け入れ可能な技術やシステムを日本から発信するつもりで行いたいと考えています。ご協力のほどお願いいたします。

研究発表会基調講演講師紹介(ビルキス・アミン・ホック)：
バングラデシュで井戸水と素汚染、衛生改善に取り組むNGOであるEnvironment and Population Research Center(環境人口研究センター)代表、現京都大学防災研究所客員教授。第3回世界水フォーラムのScience, Technology and Management Panel(科学技術パネル)において“Appropriate Water and Sanitation Solutions in Stressed Situations and Beyond: A growing challenge”(資源制約下での水供給と衛生の適正な解決 - 深刻化する課題)と題するセッションを企画・コーディネート。

編集後記 ▶今年の研究発表会の年ということで、このイベントに新たな気持ちで取り組んでいかなければと思いますが、本会もさまざまな意味で転機にきていると考えられます。▶本会のアイデンティティをはっきりさせると同時に、本会だけではできないこと、つまり行政や市民との協働の場にも主体的に参加していくことで活動の広がりを求めていく必要があると考えています。▶そうしたことの具体的な動きとして、2面に取上げた東本願寺の市民プロジェクトは意味を持つと思いますし、これまで進めてきた下水道博物館情報交流会議も行政との協働の経験として、長い目で支援していきたいと思



バングラデシュのマスタートド畑

ます。▶このような活動は、相互に自立した立場で、相手を理解し、関係を社会に開示しながら進めていく必要があります。下水道界ではまだまだNPO法人も少ないですが、このような関係のもとで行政や市民とパートナーシップを組みながらの活動の実績を積み上げていく必要があると思います。(酒井 彰)

ふくりゅう 通巻32号目次

研究発表会開催のお知らせ 2003年バルトン忌のお知らせ	1
東本願寺と環境を考える市民プロジェクトに参加しよう	2
トイレ考・尿考の書評 総会成立・新運営委員紹介	3

特定非営利活動法人
日本下水文化研究会
〒162-0067 新宿区富久町6-5
NJS富久ビル別館3F

TEL & FAX 03-5363-1129
jade@jca.apc.org
aan63630@syd.odn.ne.jp

「ふくりゅう」では、原稿募集しております。「水」について思うこと、身近な話題、会に対するご意見やご提案、どのようなことでも結構ですから事務局までお送りください。

ホームページもご欄ください。
<http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>